

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

吹田市内の府立高校として最も長い歴史を持つ本校は、「伝統校」の誇りを持ち、地域に根差した信頼できる学校として生徒の持つ能力を最大限引き出すことを目標としている。とりわけ、以下の3点の力を身につけられるよう、生徒自身の「人間力」を育むため、教職員が一体となり、保護者、地域と連携して多様な取組みを進めていく。

- 1 自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力
- 2 確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力
- 3 心身ともに健康であり続ける力

2 中期的目標 (H31 年度～2021 年度)

1 自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力の育成

(1) 基本的生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐくむ

- ア 遅刻「0」の学校をめざし、学校をあげて「朝ガク」の充実、遅刻指導の徹底を図る。また、身だしなみ指導（頭髪・制服の正しい着用等）の徹底を図る。
※2021 年度には年間遅刻総数を 1800 件以下の状態をめざす。（H28:2,785 件、H29:2,727 件、H30:2,011 件）
- イ 授業規律を徹底するとともに、自転車マナーの向上、情報モラルの育成を図る。
※生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する全ての項目の肯定率（H28:89.9%、H29:90.8% H30:91.8%）を 2021 年度までに 95%以上に引きあげる。

(2) 学校生活における様々な活動を通じて、自己を正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐくむ

- ア 行事を通じて育成される生徒の自己肯定感と自己有用感を高めるため、学校行事・HR活動の「質の向上」をめざす。また、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を高め、新たな提案や活動ができる人材を輩出できるよう、生徒・生徒会執行部の主体的な活動を積極的に支援する。
※生徒向け学校教育自己診断における学校生活全般に関する項目の肯定率（H28:74.0% H29:72.5% H30:72.3%）を 2021 年度には 80%以上とし、生徒向け学校教育自己診断における学校行事における自主性・積極性に関する肯定率（H28:87.0% H29:85.3% H30:84.9%）を 2021 年度には 90%以上とし、それを維持する。
- イ 部活動への加入を促す取組みを計画・実施するとともに、部活動の質の向上をめざす。さらに、吹高見学会を活性化し、より多くの中学生の参加を図るとともに本校生徒の運営への参加を広げ、中学生との交流の機会を増やすことで「吹高生」としての自覚を高める。
※部活動の加入率（H28:40.6% H29:47.4% H30:48.9%）ならびに部活動に対する満足度（H28:91% H29:75% H30:84.9%）を引きあげ、2021 年度には加入率を 55%以上、満足度を 90%以上を維持する。
- ウ 人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、いじめを許さないことはもとより、互いを認め、尊重していくことのできる精神を育む。
※生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率（H28:72.9% H29:74.3% H30:78.4%）を毎年引きあげ、2021 年度には 80%以上に引き上げる。

(3) 生徒が主体的に進路目標を定め実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐくむ。

- ア 「進路のてびき」を作成し、系統的な進路指導計画への改善を進め、1 年生から 3 年生までの学習進行に応じた計画的進学講習のさらなる定着・発展に努める。
※進学講習への参加者の満足度を 2021 年度には 80%以上とする。
- イ 進路検討会議の定例化により、生徒の進路実現にむけた課題を早期に発見確認し、3 年間の長期的展望にたった具体的支援策をチームで実施していく。
※生徒向け学校教育自己診断の進路指導に関する全ての項目の肯定率（H28:82.5% H29:81.7% H30:85.6%）を毎年引きあげ、2021 年度には 90%以上に引き上げる。

2 確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成

(1) 生徒の持つ学力を最大限に引き出す

- ア 公開授業、研究授業の定期実施、授業アンケートによる綿密な分析等に基づき、シラバスおよび「吹高 CAN-DO リスト」を充実させるとともに、ICTの活用促進や「主体的・対話的で深い学び」の実現により、さらなる授業改善に組織的に取り組む。あわせて、これまで蓄積してきた「朝の学習会（朝ガク）」に関するノウハウを整理し、継続的に基礎学力の定着を図る。
※生徒向け授業アンケートにおける授業等学習活動に関する満足度の平均（H28:3.13 H29:3.15 H30:3.19/満点 4.0）を 2021 年度には 3.2 以上に引きあげ維持する。
- イ 個別自習室・図書室・食堂等の活用促進を図り、生徒に自学自習の習慣を定着させ、進学実績のさらなる向上に努める。
※2 年次 1 月の基礎学力調査の結果（Cゾーン以上 H28:22.0% H29:20.0% H30:20.0%）を段階的に引きあげ、2021 年度には C ゾーン以上の割合を 25%以上に引きあげる。
- ウ 1 年生での計画的なキャリア教育・進路指導を進め、キャリア教育に関する肯定率を 2021 年度には 80%以上に引き上げる。

(2) 生徒の力を育成する新たな教育課程の構築、取組みの充実

- ア 学習指導要領の改定に基づき、グローバル化・情報化等の社会の加速度的変化に対応できる「問題発見・解決能力」、「論理的思考力や探究力、コミュニケーション能力」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するための新たな教育課程を作成し、取組みを実施する。また、学校全体として道徳教育の充実に努める。
- イ 平成 31 年度で最終学年となることも未来専門コースについて、大学等との連携強化をはじめ近隣の幼稚園・保育園との協働によるデュアル・システムなど生徒の総合的な資質の向上に向け、円滑な運営推進に努める。
※子ども未来専門コースを選択した生徒たちにアンケートを実施し、コースで学ぶ内容等についての満足度（H28:97.2% H29:85.0% H30:97.5%）を 90%以上で維持する。
- ウ 平成 25 年度入学生から開設した 68・69 期生の「進学クラス」に対し「吹高 CAN-DO リスト」に沿って計画的にレベルアップする等、進学クラス PT を中心として学力向上に向けた取組みを組織的に実施する。また、進学クラスでの成果を踏まえて、補習・講習の充実、質問会・宿題の量的見直し、個別自習室・図書室等の活用促進などによって授業外の学習時間を増加させ、生徒全体の学力の向上を図る。
※進学クラスの生徒が受験する外部模試の偏差値 50.0 以上の生徒数を、2021 年度には進学クラス在籍者数の 20%以上にし、それを維持する。（R1:8%）
※2021 年度には、関関同立・産近甲龍レベルの難関および人気大学への合格者を、四年制大学進学希望者の 20%以上をめざす。（H28:30 名 H29:24 名 H30:28 名）

3 心身ともに健康であり続ける力の育成

- ア 保護者や校外の関係機関との連携を強化するとともに、月 1 回の生徒情報会議（みかん会議）を充実させ、課題を抱える生徒の早期発見・対応を図る。加えて、特別支援サポート委員会、生徒相談室の開放、スクールカウンセラーの活用等を通じて、支援や指導が必要な生徒により適切な形での支援・指導を行う。これらの体制を十分に機能させることにより、生徒が自らの心身の状況を正しく理解し、学校生活に適切に力をつける。
- ※生徒・保護者向け学校教育自己診断等の教育相談に関する項目の肯定率（H28:77.3% H29:82.4% H30:81.2%）を毎年引きあげ、2021 年度には平均 85%以上を維持する。
- イ 清掃活動、救急講習、性教育講演会、薬物乱用防止教室等を通じて、将来につづく健康管理・自己管理の意識を育成する。
※生徒・保護者の清掃に関する項目の肯定率の平均（H28:67.7% H29:65.6% H30:68.4%）を毎年引き上げ、2021 年度には 70%以上に引き上げる。
- ウ 関係各機関と連携し、防災教育や防災訓練、救急処置講習会等を計画的に実施することで、防災・安全対策をすすめ、安全で安心な学校づくりに努める。

4 校内組織・教職員集団づくり、保護者ならびに地域との連携の強化

- (1) 運営委員会を中心としたミドルアップ・ダウンを確実に定着させ、学校運営の機動性をさらに高める。また、これまで以上に積極的・意欲的で一体感のある教職員集団の構築をめざし、学校経営計画の実現に向けた建設的な改善策や新たな取組みが、誰からも提案される学校風土を醸成する。
- ア 学校運営に関わる大きな取組み・計画について運営委員会で議論を深め、目標を共有した組織的、一体的な取組みを確実に定着させる。
- イ 首席を中心に、学務グループ（教務部・進路部）、生徒グループ（生徒指導部・生徒会部・保健部）が、それぞれグループ内の連絡調整をより円滑に行う。
- ウ 校内研修（事務会計、要配慮生徒情報、個人情報取り扱い、最新の救命救急等）を職員会議でのミニ研修を含めて実施し、常に学び続ける教師集団を形成する。
- (2) ICT等、校内ネットワークを活用し、校務の効率化に努める。
- ア 教職員が生徒と向き合う時間を確保するため、省略できる連絡事項は校内メールによる情報共有をさらに促進するとともに、会議資料の簡素化、職員会議の内容のさらなる充実を図る。※教員向け学校教育自己診断等の校務の効率化に関する項目の肯定率（H28:70.2% H29:75.6% H30:65.3%）を 2021 年度には 75%以上に引き上げる、維持する。
- (3) 地域や保護者との連携強化、広報活動の充実を図る。
- 体育祭・文化祭などの学校行事や人権に関する職員研修などへの保護者の積極的な参加を図るとともに、これまで連携してきた地域の教育機関との連携を深化させる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和元年10月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>■生徒指導 規範意識に関する項目の平均肯定率は、年々上昇し94.8%になったが、「指導をされ、ペナルティーを課されるから」ではなく「自分の成長」や「周りへの迷惑」を考えて生徒自身が自らを律することができることを念頭に置きつつ、遅刻指導や身だしなみ指導などを生徒の現状に合った形で続けていきたい。</p> <p>■生徒会活動 様々な集団に所属する生徒たちの連携が、これまで以上に発展していくことで、生徒の「自主性」の育みを促し、生徒が人間的に成長していくための糧になると考えている。学校行事への自主性・積極性に関する項目での肯定率は85.5%であるが、学校行事の準備・運営の大部分を生徒たち自身で行えるようになることを最終の目標にこれまでの取組みを継続していきたい。</p> <p>■クラブ活動 クラブ部員向け満足度調査における、部活動に対する肯定率は86.4%と高いが、加入率は50%程度で推移している。新入生が入りやすい仕組み作り、他の部で頑張っている生徒の活動に関心を持てるような機会を提供できるような工夫を検討していく。また、クラブ部員の満足度が向上するような活動環境の整備や物品等の支援も随時行っていきたい。</p> <p>■互いを認め合える集団づくり 人権に関する項目における肯定率は74.7%であった。「いじめ、暴力を学校は見逃さず対応しているか」については、生徒の小さな変化に気づけるよう、担任をはじめとした教員集団によって日常的に見守り、組織的な関わりをさらに深めていく。また、本校独自のいじめアンケートも有効に活用しながら、その兆候の早期発見・対応に努めることで、生徒から信頼され、安心して過ごせる学校となるよう努力していきたい。 引き続き、人権に関して学ぶ機会（講演会等）を設けて意識の向上に努める。</p> <p>■進路指導 生徒の進路指導に関する項目の肯定率は83.2%となり、学校の取り組みが生徒に一定程度は理解されていると分析できる。ただ、本校生徒の進路希望は多岐にわたることもあり、更なる指導の充実に向け、3年間を見通した「吹田進路プログラム」の内容をさらに精査し、科目選択説明会、進路HR、保護者説明会等の日程設定や順序にも留意し実施していきたい。</p> <p>■授業改善 教員の授業力改善に関する項目の平均肯定率は81.0%であった。年に2回実施する授業アンケートの振り返りや公開授業等を通して、すべての教員が自らの授業技術を磨く機会を積極的に設けた。CAN-DO リスト等を使って教科や科目単位で年間の到達目標を明確にして生徒に提示することを充実させるとともに、ICT機器等の環境整備、研修の機会の設定などを通して、引き続き総合的な授業力の向上に努めていきたい。</p> <p>■教育相談・支援教育の充実 教育相談に関する項目の肯定率は、生徒68.0%・保護者87.6%だった。生徒自らが持つ資質や能力を最大限発揮するために、教育相談や支援教育の果たす役割は、ますます大きくなってきている。引き続き、みかん会議やサポート委員会などをより一層充実できるような環境を整えていきたい。</p> <p>■校内美化 清掃に関する項目の肯定率は、生徒71.6%・保護者68.9%（平均70.3%）となり、昨年、一昨年より上昇した。校舎が老朽化して限界があるとはいえ、自らの学習環境を清潔に保とうとする意識は着実に向上していると分析できる。将来の社会生活を行う上でも大切な意識であるので、自分たちの学校の美化は自分たち自身が責任を持って取り組むという意識を持てるよう、日々の清掃指導やクリーンキャンペーンなどの行事を継続していきたい。</p>	<p>【第1回学校運営協議会（令和元年6月17日）での主なご意見等】</p> <p>○中期的目標は3年スパンの計画であると伺っているが、新しい取組みを追加したり、すでに達成された項目があるなら、その数値については変更するなどステップアップして欲しい。</p> <p>○肯定率を目標値にせざるを得ないのも理解できるが、肯定率が仮に85%の時、否定的な意見を持っている15%の生徒に対してもスポットを当てるべきと考える。</p> <p>○いじめ問題や性教育も、ただ単に「やっばいいけない」だけではなく「具体的にどう責任をとれるか」等まで含めて、生徒自身が考えられるように指導すべきだと考える。家庭での責務もあるが、学校でもはっきり分かりやすく指導して欲しい。</p> <p>【第2回学校運営協議会（令和元年11月13日）での主なご意見等】</p> <p>○生徒会・クラブ活動について 生徒会執行部での取り組みとして、役員を補助する生徒を募集して行事などを一緒に実施している点は評価できる。自主性を育てる事につながるのも、是非続けて欲しい。また、クラブ満足度調査については、経年変化を知りたいので継続調査をお願いしたい。</p> <p>○進学希望者への対応について 放課後の進学講習については、一斉指導よりも個別指導の方が効果大きいと思われる。ただ、個別対応となるとそれに関わる教員が多くなり、クラブ指導とのバランスなどが課題であろう。聞きやすい先生に聞いてしまうといった片寄りも発生することも想像される。</p> <p>○進学クラスについて 進学クラスの募集方法・時期を変更したようだが、1年生で進学クラス希望者が80人あったことは喜ばしいと思う。春と秋に希望調査を実施し、本人・保護者が十分に検討し、担任や教科担当者とも個別に面談等を実施したことにより、ミスマッチが少なくなっているようで良いことだと思う。</p> <p>○道徳教育について：学校から 道徳教育の研修を教員間での共有のために実施した。研修内容はPDCAサイクルの導入、志学との関係性の留意点、新科目「公共」との関連性についてであった。新たな道徳教育に向けて現在の体制としては、首席一人が担当しているが、今後はプロジェクトチームなどの体制を作って組織的に対応する予定をしている。</p> <p>【第3回学校運営協議会（令和2年2月17日）での主なご意見等】</p> <p>○生徒指導について 遅刻の総数が年々減少傾向にあることは指導の効果がみられていると感じられる。今年度減少した主な要因はどこにあったのか。引き続き、指導を学校全体として続けて欲しい。</p> <p>○生徒会活動について 生徒が主体となって行事の運営が進むこと理想であり、そこに向けて指導をすることは間違っていないが、どこまで手を差し伸べるかという議論ができていない結果が表れていると感じられる。教職員向けの自己診断アンケートの質問内容の変更も検討されてはどうかと思う。</p> <p>○いじめアンケートについて 大阪府全体の共通様式の分を年に2回無記名で、また学校独自の分を年に1回記名で実施しており、生徒の訴えを早い段階でキャッチしようとする姿勢が感じられる。</p> <p>○進学クラスについて 1年生全員に入学当初から自分の進路を考えさせることで、進学クラスの開設を2年生からにしたようだが、良いことだと思う。1年生の間に自分の進路についてじっくりと考えられることはとても大切だと思う。</p> <p>○学校運営について 教員向け自己診断アンケートの結果が、年度によって大きく変動している点が気にかかっているので、次世代のリーダーを育成して、安定した学校運営をめざして欲しい。</p>

府立吹田高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 自己を理解し、他者を認め、望ましい人間関係を構築する力の育成	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐくむ</p> <p>(2) 様々な活動を通じて、自己正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐくむ</p> <p>(3) 生徒が主体的に進路目標を定め、実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐくむ</p>	<p>ア、生徒の遅刻防止に対する意識の向上をめざす。そのために、細かい目標設定を行い、本校における遅刻指導について、教員のさらなる理解を深めていく。遅刻だけでなく、欠席状況にも注意しながら基本的な生活習慣を確立させる。</p> <p>イ、頭髪や指導において、指導経緯を再確認するとともに、生徒へのアプローチを丁寧に行い、頭髪や指導に関する生徒の理解を深め、自律を促す取り組みを展開する。</p> <p>ウ、生徒、保護者への連絡を密に行いながら、生徒の自律を促し、家庭と学校とが連携強化をはかるとともに、制服・ピアス等の身だしなみ指導の徹底をめざす。</p> <p>エ、1年生の自転車交通安全講習会や交通キャンペーン及びポスターなどを通し、継続的な交通マナーに関する指導を行い、生徒の交通マナーに関する意識を高める。それにより、自転車通学者を中心に交通安全意識の向上をめざす。</p> <p>オ、授業マナー（バル着指導、机上整備・準備の徹底、携帯電話電源OFF等）について、具体的取組を検討し、学年団とも連携のうえ、生徒への働きかけを強化する。</p> <p>カ、3年間を通して情報モラルを育成するため、人権教育推進委員会・情報科・学年が連携し計画的に学習を実施する。</p> <p>ア、生徒会執行部とそれ以外の生徒の連携を促し、生徒が自主的・積極的な活動を展開できるような支援を行うとともに、それを実現し得る校内体制をさらに強化する。</p> <p>イ、校内外に向けた部活動の情報提供を活性化し、部活動の質・量、両面での向上を支援する。</p> <p>ウ、いじめアンケートの実施による実態把握と、迅速な対応を行う。 ・3年間を見据えた人権HR計画の更なる充実と円滑な実施を行う。</p> <p>ア、3年間を見通した「進路指導計画」や「模擬試験の年間計画」等を年度当初に生徒に提示し、進路実現に向けて生徒が主体的、計画的に取り組むように促す進路指導を行う。</p> <p>イ、各学年の実態に応じた「進路ガイダンス」を実施する。</p> <p>ウ、「吹田進路プログラム」の再検討を通じて「進路のてびき」の内容および使用方法について改訂を行う。</p> <p>エ、就職希望生徒（学校斡旋及び公務員）に対して、より細かな指導を行う。</p> <p>オ、「進路検討会議」の定着を図り、進路実現に向けての課題を早期の掘り起こし、早期の計画的支援につなぐ。</p>	<p>ア、継続的に調査している年間遅刻件数を2000件以下とする (H29:2727件 H30:2011件)</p> <p>イ、年間の頭髪指導件数を15件以下を維持する (H29:10件 H30:14件)</p> <p>ウ、服装指導における預かり指導件数を20件以下とする (H29:27件 H30:19件)</p> <p>エ、生徒向け学校教育自己診断における登下校マナーに関する項目の肯定率90%以上を維持する (H29:87.8% H30:91.8%)</p> <p>オ、生徒向け学校教育自己診断における授業規律に関する項目の肯定率70%以上にする (H29:61.4%、H30:63.3%)</p> <p>カ、学習後の理解、認識の向上に関するアンケートの肯定率90%以上とする (H29:94.0% H30:実施せず)</p> <p>ア、生徒向け学校教育自己診断における、学校行事への自主性・積極性に関する項目での肯定率90%以上にする (H29:85.3% H30:84.9%) 教員向け学校教育自己診断における、学校行事の組織的な取組みに関する項目での肯定率65%以上にする (H29:80.5% H30:57.7%)</p> <p>イ、クラブ部員向け満足度調査における、部活動に対する肯定率85%以上にする (H29:75.0% H30:84.9%) ・生徒、保護者向け学校教育自己診断における部活動に対する肯定率85%以上にする (H29:80.0% H30:82.6%)</p> <p>ウ、生徒向け学校教育自己診断における人権教育に関する項目の肯定率80%以上にする (H29:74.3% H30:78.4%)</p> <p>ア、「進路指導計画」および「模擬試験の年間計画」等を6月までに生徒に提示する</p> <p>イ、各学年進路HRにおいて、「進路のてびき」を使った進路学習を計画的に実施する ・「進路ガイダンス」は各学年の発達段階に留意しつつ実施し、3年は2学期までに2～3回開催する</p> <p>ウ、「進路のてびき」の内容の充実に向けた改訂をし、1学期中に配付する</p> <p>エ、就職希望生徒（学校斡旋）の卒業時の内定率100%を維持する (H30:100%)</p> <p>オ、「進路検討会議」を、1,2年生は年1回、3年生は1学期に1回、2学期に2回実施し、必要に応じて外部機関につなぐなど適切な支援をする。 ・生徒向け学校教育自己診断における進路指導に関する項目の肯定率85%以上を維持する (H29:81.7% H30:85.6%) ・教員向け学校教育自己診断における進路指導に関する項目の肯定率70%以上を維持する (H30:73.5%)</p>	<p>ア、年間遅刻総数は1697件となり目標を大きく上回ることができた【◎】</p> <p>イ、年間の頭髪指導は10件とこちらも少なく、指導が浸透している状況である【○】</p> <p>ウ、服装指導における預かり指導は17件。制服などの身だしなみ指導が定着している状況である【○】</p> <p>エ、肯定率は94.4% 登下校指導と違反者に対する警告など粘り強い指導の成果があらわれてきた【○】</p> <p>オ、肯定率は80.1% 昨年、一昨年を大きく上回る数値であり、授業マナー向上の取り組み（教員全体で授業規律の具体的な内容の確認、メロディチャイムの追加）が功を奏したと受けとめられる。【◎】</p> <p>カ、1年生の情報モラル講演会実施後の肯定率は93.7%となり、講演での内容を意識した行動ができるよう継続的なアプローチを実施する【○】</p> <p>ア、肯定率は85.5%となり、例年とほぼ同じ結果となった。生徒会執行部と生徒の連携を構築していく必要がある【△】</p> <p>こちらも肯定率が52.4%しかなく、組織的な連携が図れるよう、資料提示の方法やタイミングなど見直しが必要である【△】</p> <p>イ、部活動に対する肯定率は86.4%。活動場所や時間に関する意見がもったが設備や道具に対する意見に応じていきたい【○】 生徒は70.1%、保護者は82.2%で生徒の肯定率が下がった。生徒会新聞や部代表者会議、HPやブログ、メルマガ等を引き続き活用することで、目標達成に近づけたい【△】</p> <p>ウ、人権教育に関する項目の肯定率は77.4%と目標に及ばない状況ではあったが、いじめアンケートなどを活用し、人権教育推進委員会で集約および実態の把握をして、迅速に対応する体制は引き続き維持していく【△】</p> <p>ア、3年生には4月のガイダンスで、1,2年には、5月におこなった進路HRで配付した【○】</p> <p>イウ、「進路のてびき」については、1学期中に配付して各学年が進路HRにて有効に利用した。また、各学年の進路ガイダンスも予定通り実施できた 1年:3回、2年:1回、3年:2回【○】</p> <p>エ、学校斡旋就職を希望する生徒の内定率は今年度も100%を維持できた【○】</p> <p>オ、進路検討会議は、予定していた分をすべて実施でき、きめ細やかな指導をするための情報共有が図れた【○】</p> <p>・生徒の肯定率は86.8%となった。進路希望が多岐にわたる中、きめ細やかな進路指導を引き続き心がける【○】</p> <p>・教職員の肯定率は、74.6%となり、主催者を中心に組織的計画的に指導していく態勢が整っていることもあり、高い評価を得た【◎】</p>

府立吹田高等学校

<p>2 確かな知識や技能をもとに考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成</p>	<p>(1) 生徒の持つ学力を最大限に引き出す</p> <p>(2) 生徒の力を育成する新たな教育課程の構築、取組みの充実</p>	<p>ア、進路指導部、学年、進学PTが連携し、進学講習、個別自習室、学習アプリケーション等の利用の推進について取組みを進め、自学自習する生徒への支援を充実させる。学校をあげて「朝ガク」を「基礎学力の定着」「学習環境の確立」の両面から継続する。</p> <p>イ、観点別学習状況を踏まえた年間計画（シラバス）充実を図る。 年2回（7月、12月）の授業アンケート結果をもとに組織的な授業力向上策につなぐ。</p> <p>ウ、1年生での計画的なキャリア教育・進路指導を進める。</p> <p>エ、ICT活用授業、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、校内外での研究授業・研修などを通して各教科の授業力の向上を図る。</p> <p>ア、学習指導要領の改定を見据え、吹田高校の生徒の力を育成する新たな教育課程の検討を開始する。</p> <p>イ、大学や地域機関との連携を更に深め、こども未来専門コースで展開される専門教科の授業の質を更に向上させる。</p> <p>ウ、進学クラス生徒の進学に対するモチベーションを向上させ、3年間を見通した進路指導を充実させる。また、土曜日講習を含めての円滑な進学クラス運営を行う。</p> <p>エ、異なる文化や習慣を尊重する精神を養い、国際的な視野を育てるため、国際交流の機会を利用する等、系統的な指導を行う。</p>	<p>ア、2年次1月の基礎力判定テストの学習到達ゾーンCゾーン以上の割合を25%以上にする（H29:20% H30:20%） ・進学講習の受講者のべ600名以上にする（H29:705名 H30:464名）</p> <p>イ、授業アンケート結果の平均3.15以上を維持する（H29:3.15 H30:3.19）</p> <p>ウ、1年生の生徒向けのキャリア教育に関するアンケートの肯定率を70%以上にする</p> <p>エ、教職員向け自己診断の授業力向上に向けての取組の肯定率85%以上にする（H29:81.9% H30:83.5%）</p> <p>ア、教育課程の検討を始め、道德教育教育計画を編成・策定する</p> <p>イ、こども未来専門コースの授業に対する満足度90%以上を維持する（H29:85.0% H30:97.5%）</p> <p>ウ、土曜日講習に対する満足度80%以上を維持する（H29:81.6% H30:79.3%） ・関関同立・産近甲龍レベルの延べ合格者を四年制大学合格者全体の20%以上にする</p> <p>エ、異文化理解・多文化共生や日本文化について希望者を対象にした探究活動を実施する</p>	<p>ア、Cゾーン以上24%で、目標にあと少しだったがここ4～5年では一番高い水準だった【○】 ・進学講習の受講者延べ人数は446名で目標に届かず。ただ、放課後の講習は一斉講義より個別指導が中心になっている【△】</p> <p>イ、第1回は3.17第2回は3.15で平均は3.16 観点別評価の在り方、実施方法に関しては、指導要領の改訂に合わせて、重点的に取り組めるように様々な情報を共有している最中である【○】</p> <p>ウ、肯定率は84.2%であった。新たなキャリア教育・進路指導は、新しい進学クラスを組織することと併せて実施したこともあり順調に進んだ【◎】</p> <p>エ、肯定率は81.0%であった。ICT機器を利用したりAL型授業を中心に研究授業や公開授業が数多く実施された。更なる充実が課題【△】</p> <p>ア、新たな教育課程を本格的に議論するための準備が整った。また道德教育についても研修で、教員間の意識を共有することができた【○】</p> <p>イ、専門コースの授業の満足度は今年度も高く98.6%だった。特に保育実習についての満足度が非常に高かった【◎】</p> <p>ウ、土曜講習に対する満足度は65.6%と低く、一斉授業と個別指導のバランスが課題である【△】 左記レベルの合格数は四年制大学合格者全体の約38%となった【◎】</p> <p>エ、外国語専門学校のグローバル体験プログラムに2年生進学クラス生徒が参加した【○】</p>
<p>3 心身ともに健康であり続ける力の育成</p>	<p>心身ともに健康であり続ける力を育てる</p>	<p>ア、・多様な生徒情報を保健部主導による月1回の生徒情報会議（みかん会議）で共有し、課題のある生徒への早期対応に取り組む。 ・学校医・学校歯科医・学校薬剤師、養護教諭による健康相談を随時実施し、生徒や保護者が有する心身の健康についての悩みや相談にいち早く対応する。 ・特別支援サポート委員会と連携・協働し、合理的配慮が必要な生徒の早期発見に努め、スクールカウンセラーや関係機関と連携して、個別の支援方法（支援計画の作成等）を検討する。</p> <p>イ、教職員や生徒保健委員会等からアイデアや意見を聞き取り、日常の校内清掃活動の充実、校内美化の推進につなげていく。 ・各行事前等の清掃徹底週間では、特にトイレ、廊下、階段などの共用エリアの美化に重点的に取り組む。 ・生徒保健委員による美化啓発活動を実施し、校内美化意識を向上させる。 ・クリーンキャンペーン等の校外清掃を地域と連携して実施し、地域全体の環境美化に対する生徒の意識を高める。</p> <p>ウ、生徒と教職員による定期安全点検を各学期ごとに行い、安心・安全な学校環境を維持する。 ・関係各機関と連携し、防災教育や防災訓練、救急処置講習会等を計画的に実施し、地域的な防災・安全対策を推進する。 ・生徒の健康課題の解決に向けた各種講習会を学年ごとに計画的に実施する。また、生徒の健康実態を把握し、生徒保健委員会による健康課題解決に向けた啓発活動を併せておこなう。</p>	<p>ア、生徒・保護者向け学校教育自己診断での教育相談に関する項目の肯定率が生徒保護者の平均85%以上にする（H29:平均82.4%、H30:平均81.2%）</p> <p>イ、生徒、保護者向け学校教育自己診断の清掃に関する項目の肯定率の平均を70%以上にする。（H29:65.6% H30:68.4%）</p> <p>ウ、安全点検の実施と事務室による対応結果の確実な共有を図る。 ・防災教育や各講習会後の生徒対象アンケートにおける理解・認識の向上に関する肯定率95%以上を維持する（H29:98.0% H30:96.4%） ・生徒保健委員会による健康課題解決に向けた啓発活動を年間5回以上実施する。（H30:5回）</p>	<p>ア、教育相談に関する肯定率の平均は77.8%であった（生徒68.0%、保護者87.6%）【△】 ・生徒情報会議（みかん会議）を年間9回開催し、要配慮生徒の情報共有を継続して行った。発達障がいを含む障がいのある生徒については、支援教育コーディネーターや進路指導部と連携し、生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立、社会参加をめざして継続した指導・支援を行った。 ・学校医、学校歯科医による健康相談は年間9回実施し専門的立場から指導助言をいただいた。 ・校内特別支援サポート委員会を3回実施し、障がいのある生徒に対し、必要な合理的配慮について検討し、個別支援計画・個別指導計画の作成、教職員全体への合意形成につなげた【○】</p> <p>イ、清掃に関する肯定率の平均は70.3%（生徒71.6保護者68.9）で引き続き充実させる【○】 ・校内安全点検は各学期1回、生徒保健委員会は、美化係6回、行事係4回、広報係4回に加えて全体会を3回開催して、意識の向上につなげた。 ・生徒保健委員による校内清掃啓発活動として、啓発ポスター作成やゴミ箱の設置や撤去を実施した。</p> <p>ウ、職員及び生徒による定期安全点検を7・12・2月の3回実施した。事務室と連携し、学校で可能な対応、処置については全て行った【○】 ・防災避難訓練、防災教育、薬物乱用防止教室、救急処置講習会、性教育講演会、献血セミナー、栄養管理セミナー、デートDV予防啓発出前授業、他者理解のための講演会を実施した。生徒対象事後アンケートでは肯定率が96.3%であった【◎】 ・生徒保健委員による、保健だよりの作成を年間5回実施して感染症予防等に役立てた【○】</p>

府立吹田高等学校

<p>4 校内組織・教職員集団づくり、連携強化</p>	<p>(1) 校内組織の活性化、教師集団づくり</p> <p>(2) 校務の効率化</p> <p>(3) 地域・保護者との連携強化、広報活動の充実</p>	<p>ア、「基本的生活習慣・規範意識の確立」「学力の向上」「授業力向上」「新教育課程の編成」を学校全体の大きな取り組み課題ととらえ、分掌を超えての連携ならびに役割分担の明確化を行い、運営委員会での方針決定のもと、機能的に課題を解決する。</p> <p>イ、各首席が学務グループ長、生徒グループ長として、上記横断的課題を解決するため、各分掌間の連絡調整を綿密に行う。</p> <p>ウ、職員会議内のミニ研修等を活用し、「知りたい」「知ってほしい」課題についてのタイムリーな研修とする。そのことで常に学び続ける教師集団を形成する。</p> <p>ア、校内メール、共有フォルダ、スクリーン映写資料等を活用して報告事項の精査、資料の簡素化を図り、校務のさらなる効率化をめざす。</p> <p>ア、学校行事・クリーンキャンペーン・登下校指導の機会を利用し、地域住民や・PTA等の保護者との連携を強化する。</p> <p>イ、広報PTが中心となり、より効果的な広報活動について引き続きトータルに検討し実施する。また、HPの更新頻度を上げ、情報発信の機会を拡大する。</p>	<p>ア、教員向け学校教育自己診断の組織的な学校運営に関する項目の肯定率を65%以上にする。 (H29:82.9% H30:60.4%)</p> <p>ウ、教員向け学校教育自己診断の研修に関する項目の肯定率70%以上にする (職員会議におけるミニ研修の回数について、H30年度は4回実施)</p> <p>ア、教員向け学校教育自己診断の校務の効率化に関する項目の肯定率70%以上を維持する。(H30:65.3%)</p> <p>イ、保護者向け学校教育自己診断の広報に関する項目の肯定率75%以上にする (H29:68.8% H30:69.2%)</p>	<p>ア、肯定率の平均は69.2%となり、昨年から大きく向上できた。学校経営計画に基づいて各自の計画を立て、それに基づいて役割分担を明確化したことにより組織的機能的に動けた【◎】</p> <p>ウ、校内ミニ研修を6回実施したが、肯定率は60.5%にとどまった【△】 要配慮生徒情報、大学入学者選抜の新しい動き、道徳教育計画、新調査書など多岐にわたる内容を実施したが、研修の内容、実施時期、周知の方法など改めて検討することが必要</p> <p>ア、肯定率は76.2%。職員会議では書画カメラを利用するなどして時間の短縮が図れた【○】 統合ICTのシステム変更への対応が必要</p> <p>ア、クリーンキャンペーンを12月に実施。クラブ部員を中心に255名の生徒が参加した。実施後の生徒アンケートの肯定率86.4%【◎】</p> <p>イ、保護者の広報に関する肯定率は75.9%だった。メールマガジン、HP等を通じて引き続きスピード感をもって正確な情報を発信する【○】</p>
---------------------------------	---	--	---	--